

合気道

守央書

Vol. 22

全日本合気道連盟広報 JAPAN AIKIDO FEDERATION (JAF)

◇発行日：令和2年6月29日(月)
◇発行：全日本合気道連盟(JAF)
〒162-0056
東京都新宿区若松町17番18号
(公財)合気会内
TEL 03-6457-3315

◇発行人：尾崎 响
◇編集責任者：林 典夫

2P 現在の状況下において 合気道道主植芝守央

3P 全国道場・団体連絡会議
全日本合気道連盟理事会

4P 全国指導者候補講習会

5P 合気道兵庫県連盟 地域社会合気道指導者研修会
愛媛県合気道連盟 地域社会武道指導者研修会

6P 愛知県合気道連盟 地域社会合気道指導者研修会
山梨県合気道連盟 合同講習会

7P ニュージーランド50周年

現在の状況下において

合気道道主

植芝 守央

合気道本部道場が令和二年四月八日からすべての稽古を自粛し、事務局も閉じ、全く人の気配がなくなつてから早くも一か月が経ちました。緊急事態宣言が延長されたことにより当分の間は稽古を自粛せざるを得なくなりました。覚悟はしているものの残念でなりません。

この一か月、一日に一度は窓を開け、空

気を流すために道場へと足を運びました。シンと静まり返っている道場、百五枚の畳、板張りのへりを合わせて百二十畳の道場がより一層広く感じます。正面の開祖植芝盛平翁と吉祥丸二代道主のお二人のお写真が現在の状況にも動ぜずじつとご覧になつています。

昭和六年に開祖が私財を寄付して建て



た合気道専門道場「皇武館」。東京への度重なる空襲により、道場のある若松町も燃えつくされる状況下で、「開祖から留守を任された大切な道場を燃やされてはならない」との思いで植芝吉祥丸二代道主は飛び来る火の粉を振り払い、必死に道場を守り抜いたのです。焼け野原の中に一つ道場が戦火を免れた事が終戦後の合気道再興を促す思ひ召しだったに違いありません。当然戦時下は稽古をすることは出来ず、終戦後も避難所として開放されていたのです。

建物は建て替えられましたがお二人の魂がこもった道場であることに変わりはありません。

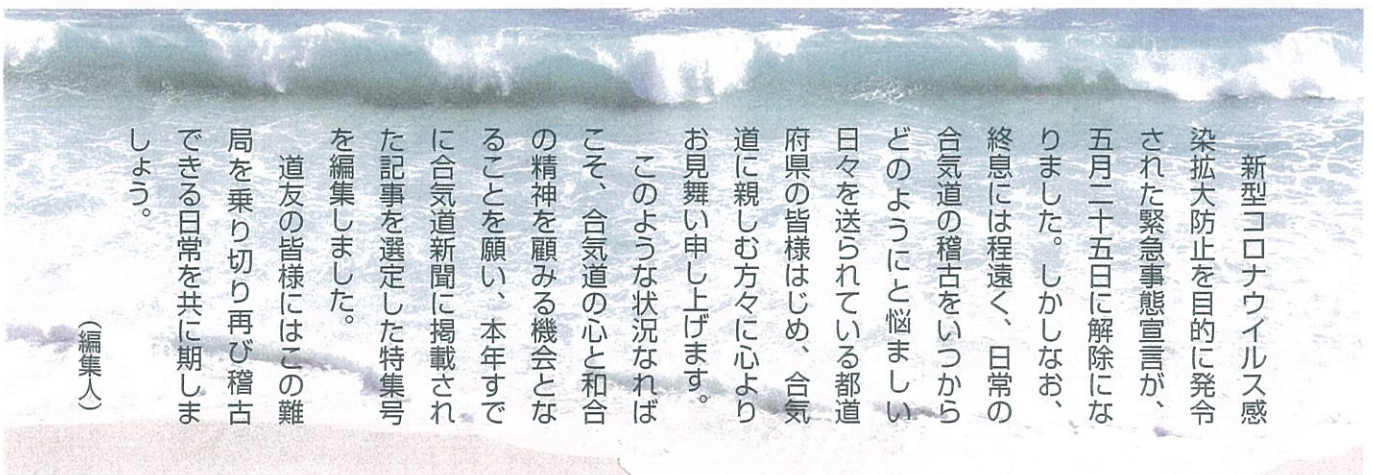
新型コロナウイルス感染拡大により、世界中で合気道の稽古を自粛しなければならず、公益財団法人合気会としても非常に苦しい時であり、じつと耐えなければならぬときです。このお二人の思いを道場で感じながら何としても切り抜けていこうと強く思っています。皆様との再会を心待ちにしながら。

新型コロナウイルス感染拡大防止を目的に発令された緊急事態宣言が、五月二十五日に解除になりました。しかしなお、終息には程遠く、日常の合気道の稽古をいつからどのようにと悩ましい日々を送られている都道府県の皆様はじめ、合気道に親しむ方々に心よりお見舞い申し上げます。

このような状況なればこそ、合気道の心と和合の精神を顧みる機会となることを願い、本年すでに合気道新聞に掲載された記事を選定した特集号を編集しました。

道友の皆様にはこの難局を乗り切り再び稽古できる日常を共に期しましょう。

(編集人)



全国道場・団体連絡会議



全国道場・団体連絡会議は、十一月十一日午後二時半から本部道場三階にて行われた。

植芝守央道主より挨拶の後、植芝充央本部道場長が議長に選出され議事が進行された。

まず行事報告として金澤威（公財）合気会総務部長より「平成三十一年（令和元年）の（公財）合気会主要行事報告、令和二年の（公財）合気会主要行事予定の報告」、宮本

鶴藏全日本合気道演武大会実行委員長より全日本合気道演武大会について「第五十七回大会についての御礼・報告、第五十八回大会についての諸連絡」、鈴木俊雄（公財）合気会少年部担当より全日本少年少女合気道演武大会についての報告、尾崎响全日本合気道連盟理事長より全日本合気道連盟からの報告として「事業報告、事業計画」と国際大会で行われる道主特別講習会の案内、小山雄二（公財）合気会学生担当より全国学生合気道連盟からの報告として「平成三十一年度の行事報告、令和二年度の事業計画」、井出啓之全国高等学校合気道連盟理事長より全国高等学校合気道連盟から「平成三十一年度の事業報告、令和二年度の事業計画、連盟加盟状況」の報告がされた。さらに本部からの連絡として、金澤総務部長より日本武道協議会の令和元年度武道功労者及び武道優良団体が発表された。武道功労者は五味田聖二師範（合気道田辺道場）、武道優良団体は静岡県合気道連盟。また「合気道本部道場創建九十周年」（公財）合気会設立認可八十周年記念祝賀会」が令和三年十月十六日に京王プラザホテルで行われると告知があった。最後に、茨城支部道場からの連絡として、稲垣繁實（公財）合気会茨城支部道場総務部長より、いきいき茨城ゆめ国体の中で行われたデモンストレーション合気道の報告と御礼などがあった。

全日本合気道連盟理事会



全日本合気道連盟（JAF）令和元年度第二回理事会が、令和元年一月十一日十二時半より合気会会議室にて行われた。

会に先立ち植芝守央現道主より「本年は高崎市で開催される第五十八回全日本合気道演武大会、東京代々木オリンピック記念センターでの第十三回国際合気道大会などの行事があります。皆様方のご協力で更なる合気道の普及振興を期待したい」との年頭の御挨拶を賜った。

現道主退席された後、尾崎响全日本合気道連盟理事長が議長となり、会議に移った。

報告事項として第十七回全日本合気道連盟講習会、アジア合気道連盟理事会、機関紙二十号と二十一号発行、第七回全国指導者研修会（尾崎理事長、合気会より林典夫常務理事が講師で参加）、「ねんりんピック」の国わかやま二〇一九大会協力、全日本合気道連盟加盟団体名簿改訂版制作と発送等について報告がなされた。

続いて新年度事業計画では、第十三回国際合気道大会、国際大会最終日に開催される第十八回全日本合気道連盟講習会（主管東京都合気道連盟）、田辺市武道館落慶記念事業、機関紙二十二号と二十三号発行について、各常任理事より説明があった。また、綾部市市制七十周年慶祝・植芝塾開設百周年記念合気道特別講習会について岡本洋子全日本合気道連盟監事から京都府連の立場として説明があった。

総て承認された後、約一時間半の理事会は閉会した。

全国指導者候補講習会

令和元年度指導者候補講習会(主催(公財)合気会)は一月二十五、二十六日の二日間 にわたり、港区スポーツセンターにおいて、国内外の合気道の普及に伴い、「幅広い年齢層と多様化した会員層に伝えられる指導者が必要となり、今後の更なる普及を見据え、指導法に関する実技と講義を行う」ことを趣旨として開催された。

本講習会には全国から四十歳以下の二段から四段の指導者及び次期指導者ら八十七

名が参集した。

二十五日の開校式にあたり、(公財)合気会理事長である植芝守央道主より「全国より多くの指導者の皆様が集まりいただきありがとうございます。二日間という限られた時間ではございますが、本講習会で合気道の基礎・基本を確認し地元での稽古、指導に活かしていただきたいと思います」と主催者挨拶。続いて講習会講師として植芝道主、植芝充央本部道場長、立木幸敏国際武道大



学教授、鈴木俊雄本部道場指導部師範、小山雄二同師範が紹介された。

開校式に続いて植芝本部道場長による実技「入門から五級までの指導法」の講習が行われた。座り方や立ち方、半身の確認を最初に指導。また受身の段階的指導方法を提示した。

続いて転換法、片手取り四方投げ、正面打ち入身投げでは相手との繋がりを意識して受けの取り方について指導された。

次に小山師範による実技「四級から三級までの指導法」の講習が行われた。小山師範は横面打ちの捌きを中心に横面打ち四方投げ、肩取り第二教を指導。打ち方や間合いの取り方を交えながら横面打ちの捌きを指導し、それが技にどのように活かされるのか強調した。小手返しや両手取り天地投げでも体捌きを活かし、崩し方や崩す方向について

指導した。

続いて立木教授による「頭部外傷の予防について」の講義が行われた。スポーツ中における事故や脳震盪の危険性について様々な事例を踏まえながら細かく解説された。翌二十六日に鈴木師範による「二級から一級までの指導法」が行われ、転換で相手との繋がりを一教、入身投げの崩しの稽古法を展開した。後ろ両手首取り第三教では、取り方や間合い、膝を十分に使い上半身だけに頼ることのないように強調し、片手取り回転投げでは前回り受身の指導や相手の崩し方を指導した。

二日間の講習の最後は植芝道主による講演・稽古が行われた。植芝道主は始めに(公財)合気会で提唱している「合気道倫理憲章」「行動規範」「合気道練習上の心得」について説明された。全都道府県で活動の軸となる連盟が発足し、今後の社会状況で正しく合気道を普及するにあたり、道場の責任者、指導者として遵守すべき内容であると説明。また「合気道練習上の心得」においては作成当時の時代背景を踏まえ解説され、開祖、吉祥丸二代道主から続く合気道の歴史を講演された。次に立ち方や座り方、体捌きの基本動作を説明。参加者と共に基本の動作を確認した。続いて基本技として諸手取り呼吸法、一教、正面打ち第一教、横面打ち四方投げ等基本技を中心に指導。技をする時の姿勢や間合いについて一つ一つ丁寧に説明された。

閉講式では最後に参加者を代表して合気道広島平進館の瀬川和宏氏に植芝道主より終了証が授与され講習会は滞りなく終了した。

和元年度 兵庫県 (姫路市) 地域社会合気道指導者研修会



毎年恒例の兵庫県(姫路市)地域社会合気道指導者研修会が二月八日、九日の二日間の日程で、姫路市のウイंक武道館(兵庫県立武道館)にて開催された。

今年は合気会本部より藤巻宏師範、里館潤指導員を招聘し、さらに合気道兵庫県連盟より佐藤裕治(宝塚合気道すみれクラブ代表、合気道兵庫県連盟理事長)、門川努

合気道
兵庫県

地域社会合気道指導者研修会

(大阪合気会神戸支部代表、合気道兵庫)が地元講師として講習を実施した。県内加盟十七団体、百八十三名が本講習会に参加した。

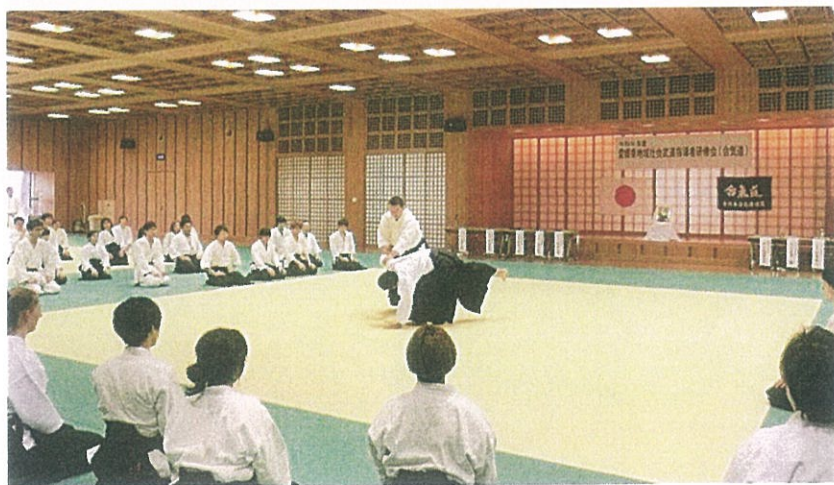
藤巻師範からは、比較的経験の浅い受講者の目線で基本技の捌きについてのご説明があり、それを踏まえて相手との間合いの取り方や、常に周りに気を配ることの大切さ等を応用技や掛かり稽古を通じてご指導していただいた。基本技の捌きからじっくりと確認できたことで受講者の理解も深まり、レベルや経験に関わらず共通の理解のもと、受講者全員が実に興味深く稽古に取り組むことができた。

今回はこれまで初めての試みとして、姫路市消防局職員の方々を講師として招聘し、稽古中に不慮の事態が発生した場合の心肺蘇生法について講習を実施した。講習用マネキンを使つての胸骨圧迫等の実技講習は実践的でまことに興味深いものであった。

一日目の講習会終了後は、武道館近くの造り酒屋「灘菊」にて恒例の懇親会を実施し、参加五十三名で藤巻師範を囲み、美味しいお酒と楽しい会話で大いに親睦を深めた。

本研修会が大変有意義なものであったということは、二日間の研修会及び懇親会における受講者の表情から如実に感じ取ることができた。

(理事長 佐藤 裕治)



愛媛県武道館において、第五回目となる愛媛県(松山市)地域社会武道指導者研修会が二月二十五、二十六の両日、開催された。愛媛県合気道連盟加盟道場十七団体から百二十七人の合気道指導者が参加した。

講師として本部道場から派遣された菅原繁師範と有馬隼人指導員、地元講師として鈴木茂愛媛県合気道連盟参与(七段)と松

愛媛県
連盟

地域社会武道指導者研修会

田正司同連盟理事長(六段)によって、両日充実した研修会となった。

菅原繁師範には、「相手との間合いを意識し、自らは常に安全な場所を確保しながら技をかけることが大切」などと、武道としての合気道を説かれた。また、応用技では、開祖の動画や写真、そして古参の合気道指導者の技を引用しながら、合気道の技が持つ意味を考えさせながらの指導をして下さった。その中でも、「剣の握り」(小指と薬指を締める)の利を生かした後ろ両手取り、諸手取り呼吸法、「剣の理合い」による手の内で探りながらの両手投げ、連続した「入り身」による入り身投げや小手返し等々、ひとつひとつの技のポイントを細かく丁寧に説明していただき、これまで、経験則で「この方が良く効くな」「これでは効かないな」などと誰もが何となく感じていたことの中に、「なるほど」と納得できるものを幾つも発見することができた。

参加者は、菅原師範に直接手を取って指導していただく一方で、他の道場の会員達とも意欲的に稽古に励み、連盟会員同士の交流の輪を広げる良い機会ともなった。

この度、このような有意義な研修会を開催していただいた、(公財)日本武道館(公財)合気会をはじめとして、開催にご尽力いただいた関係者の皆様方に深く感謝致します。

(合気道八幡浜道場 小清水 祥孝)

愛知県
連盟

地域社会合気道指導者研修会

令和元年度愛知県(名古屋)地域社会合気道指導者研修会は、二月二十二、二十三日に愛知県武道館において中央講師を宮本鶴藏本部道場指導部師範と日野皓正同部指導員、地元講師を和田昭愛知県合気道連盟名誉会長と澤田俊晴同連盟会長とし開催され、連盟傘下の四十道場より約二百



名が参加した。

二十二日の開講式では、今寺直人(公財)日本武道館振興部普及課主任と酒井正義愛知県公立武道館協議会会長・愛知県武道館館長より主催者挨拶が述べられた。

研修会は二日間で一時間半の実技指導が五回行われ、二十三日は宮本師範、澤田師範による実技指導と、日野指導員による中学校武道必修化に関する実技指導が行われた。

二十三日は和田師範と宮本師範による実技指導が行われた。宮本師範は片手取りや諸手取りを中心に、結びを意識するよう指導された。

澤田師範は膝を使うことで力みを生まない身体の使い方を指導。和田師範は肩取り面打ちを中心に体捌きの重要性を指導。日野指導員からは、段階的な後ろ受身の指導法と注意点などが説明された。

二十三日の閉講式では今寺振興課主任より受講生代表に終了証が授与された。

続いて宮本師範より「楽しく稽古できました。稽古の積み重ねが何よりも大切ですが、指導者の真似をすることが上達につながります。これからも良い稽古を続けてください」と講評があった。

最後に澤田師範より関係各位への謝辞が主管挨拶として述べられ、新型コロナウイルスへの細心の注意が払われる中無事に研修会は終了した。

山梨県
連盟

合同講習会

山梨県合気道連盟は、二月二十三日(日)、県内加盟団体による合同講習会を開催しました。インフルエンザや新型コロナウイルスなどの影響で、イベントは自粛傾向ではありましたが、稽古は日々の積み重ねの心持ちでの開催に至りました。



県内団体の交流事業として定着し、今回も本部道場より本県出身の藤巻宏師範にお願いいただき、甲府市緑が丘総合体育館武道場での講習会となりました。

稽古は、片手取り正面打の基本技を中心にしつつ、初心者にも分かりやすい指導を頂きました。一方で、有段者にとっても、技に慣れていく中で、注意が行き届かず雑になっ

ていくことへの気付きになるよう、体の前傾や固め技の出会いでの掴み癖、投げ技の後の残心や納めの意識など日頃の稽古の姿勢につながる指導を頂きました。

初心者から有段者まで、大変有意義な稽古会となりました。また、日頃の稽古相手とは違う人達との稽古は、楽しいながらもよい緊張感を生み出していました。今後も、小さい連盟ながら、つながりを密にして地域合気道の発展に寄与できるよう、活動を充実していくことを確認して講習会を終えました。

(山梨県連盟事務局)



ニュージーランド50周年

ニュージーランドにある合気道神流館の五十周年記念講習会が、三月六日から八日まで、オークランド市内にあるバーフット&トンプソンスタジアムにて開催された。

合気道神流館道場は、高瀬信夫師範が大

学卒業後にニュージーランドに渡り、創設した道場である。

本行事では植芝充央本部道場長をはじめとして、全日本合気道連盟・尾崎响理理事長、奈良合気会・窪田育弘師範、央名合気

守道場・澤田俊晴師範、大阪合気塾・須磨弘師範、小俣合気会・上埜喜生師範、アイキドウシンボクカイ・リサトモレオ二氏が招待された。

新型コロナウイルスの影響で、参加を辞退する動きもあったが、ニュージーランドをはじめ、日本、アルゼンチン、オーストラリア、フランス、サモア、タヒチなど十二カ国から総勢約三百五十名の会員が参集した。

講習会では植芝本部道場長と高瀬師範、尾崎師範、窪田師範、澤田師範、須磨師範、上埜師範、トモレオ二師範が指導を行った。植芝本部道場長は講習会の最後の稽古を含む二コマの稽古を指導した。

植芝本部道場長は、稽古全体を通して体捌きや呼吸法が技の中でどのように活かされているかを示し、稽古参加者は真剣に稽古に取り組み、汗を流していた。

六日には在オークランド総領事公邸に植芝本部道場長、神流館関係者がならびに各師範が招待され、菊池稔在オークランド総領事との会食が催され、菊池総領事は「合気道は日本とニュージーランドの良好な関係構築の一助となっており、半世紀にわたってニュージーランドで普及活動に当たられてきた高瀬師範の功績は大きいと感じています」と高瀬師範のこれまでの活動に敬意を表された。翌七日夜には神流館創設五十周年を祝うパーティーが行われ、来賓として植芝本部道場長と菊池総領事が出席された。

植芝本部道場長は祝辞を「現在のようにニュージーランドで合気道が普及しているのは、高瀬師範がこれまで情熱をもって指導されてきたからだと思っています。」

今後とも会員の方々とその輪を広げていっていただければと思います」と述べられた。

また高瀬師範は「今回神流館五十周年記念講習会にご参加いただいた全ての方々に感謝申し上げます。さまざまな紆余曲折を経て来ましたが、吉祥丸道主と守央道主から受けた指導と励ましのおかげで今日まで至ることができました。そしてこれまで自分を支えてくれた妻にも深く感謝しています。これからもニュージーランドでの合気道の普及発展に邁進して参ります」と述べた。

また今回のパーティーでは、マオリの伝統衣装が植芝本部道場長と高瀬師範に贈呈された。会場は高瀬師範を祝う温かい雰囲気になり、三時間にわたって行われた記念パーティーは、盛況のうちに閉会した。

最終日である八日は高瀬師範の稽古から始まり、昼からの植芝本部道場長の稽古後に演武会が催された。

演武会は一時間行われ、各団体の演武、師範演武と続き、最後に締めくくりとして植芝本部道場長による総合演武が行われ、神流館五十周年記念講習会は興奮冷めやらぬうちに全日程を終了した。

令和2年 春の叙勲

高瀬信夫合気道神流館代表(ニュージーランド代表)は、四月二十九日付けで発令された令和二年春の叙勲で、日本文化普及功労、在留邦人・日系人への福祉功労の功労概要として旭日単光章を受章された。元オークランド日本人会長。

